

セイノサンカ

山口仁史 令和五年九月二四日

人の道に生があり  
人の間に性がある  
何もおかしなことはない

おさえきれない衝動に  
分かち合えるはぐくみを  
あらがえない運命に  
むくいていく道しるべを

くやむときを超え あらたまる  
セイノ讃歌

相愛はひとときのエモーショナル  
まだ見ぬさきのエナジー

人に表があるよう  
性に裏があるよう  
コインを飛ばしひっくりかえす  
何もかくすことはない

行為とところを蝕む いまわしき業  
セイノ三窩

推しにもえ  
旅路におぼれ  
うばいあう 性ノ傘下  
いつしか

革張りの書籍にとどめゆく

ふれあいに関合いや歩はばがあるよう  
あなたが愛しむよう  
だれもが慈しむ  
わかるよう

わかってもらえるよう  
トランスしていくグラディエーション

生ノ惨禍

光をもとめ

狂おしきアイデンティティー

性ノ参稼

温もりと安らぎをもとめ

愛おしきマイノリティー

何もさげすむことはない

グローバルが種(しゅ)をのみこみ

自傷も自死もない世界へ

より生物(いきもの)に回歸する

たぎる情(なさけ)は性のあかし

みなぎる活力は生のあかし

熱を発し涙を流し

脈流をあたため

未知の性と未熟な生ノ讃歌

不思議であることよりどころ

何もとまどうことはない

あたりまえが待っている

解き放て